

政治への信頼を取り戻す

立憲民主党

えんどうじつ
ゆきひろ
行洋

元静岡県議会議員

元静岡朝日テレビアナウンサー

小さな声も大きな声で国に届けます

新型コロナウイルスの感染拡大は

大切な人の命や当たり前の日常を奪いました。

かつてない非常事態でも政治が優先しているのは目先の損得や効率。

政治は誰のためにあるのでしょうか。国民一人一人のためにはあるはずで

政治への不信感が大きくなり、あきらめてしまった方もいると思います。

それでも、私、遠藤行洋は変えていきます。

小さな声にも耳を傾け、その声を大きな声で国に届けます。

主役は国民のみなさんです。

1 税金の無駄遣いを徹底的にチェックします

「政治とカネ」の問題が後を絶ちません。特定の業界や特定の地域ばかりを優遇する政治を終わらせましょう。コロナ禍で苦しい状況を強いられている国民のため、休業や失業に追い込まれた働く人たちのため、税金の無駄遣いは厳しくチェックし、本当に必要なところに公正に予算配分します。

2 対案を出して政策提言し政治を前へ動かします

「野党は反対ばかり」と言われますが、立憲民主党は先の国会でも8割の法案に賛成しています。与野党の議論を通して、新型コロナウイルスに関する法改正や10万円の特別給付などを実現してきました。国民の命と暮らしを守り、誰も取り残されない社会をつくるため、政治を前へ動かします。

3 社会保障への不安をなくし経済成長を実現します

老後の生活への不安、突然の病気やケガ、教育や保育など、個人の責任ではどうにもならないことを社会全体で支えていくのが本来の国の姿です。まずは、年金制度や医療制度のあり方を抜本的に見直します。将来への安心をしっかりと保障することで個人消費を拡大し経済成長につなげます。

詳しくはこちらから
<https://y-endo.jp/>



ホームページ

1962年(昭和37年)1月生まれの59歳。静岡県立韮山高校から青山学院大学に入学。自ら開いた学習塾で家計を支えて卒業した。静岡朝日テレビにアナウンサーとして入社も、36歳のときに進行がんが見つかる。一時は死を覚悟するが奇跡的に生還。助けられた命を、誰かのために役立てたいと、政治を志す。静岡県議会議員を2期8年務める。

プロフィール